

話すこと 6

友達が話す英語を聞いて反応ができない

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

話を聞き逃してしまう場合

①目的のある言語活動を設定し、友達の話聞く意欲を高める。全

習得した表現を活用するコミュニケーション活動を行う際に、英語を使って達成する目的を明確に示し、児童が情報を伝え合うことに意欲的に取り組めるようにする。例えば、夏休みの思い出を伝え合う際に、「来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やそう」という目的を設定することは、話し手の伝えたい、分かってもらいたいという気持ちや、聞き手の知りたい、聞きたいという気持ちを引き出すことにつながる。

②聞き取れなかったら、聞き返すことに習慣にする。全・個

やり取りや発表の際に、相手が話したことが聞き取れなければ、もう一度尋ねることができるようするために、“Slowly, please.” “One more, please.”などの表現をClassroom Englishとして扱っておく。話し手に対しても、聞き手の反応を見て理解できているか確かめ、声の大きさや話す速さを調整したり、ジェスチャーを加えたり、“OK?”と問い掛けたりして、相手に伝わるように工夫して話すことに慣れさせておく。

③やり取りに慣れさせる。個

教員やALTと友達がやり取りを行う様子を見せ、やり取りの場面に慣れさせてから児童に対話させる。

【例】児童2が児童1からの質問に答えられない時の支援

教員：児童1さん、Please ask me.

児童1：What do you want for your birthday?

教員：I want a red bag for my birthday. 児童1さん、Please ask 児童2さん.

児童1：What do you want for your birthday?

児童2：I want a game.

語句や表現が定着していない場合

①やり取りや発表で扱う語句や表現に慣れさせておく。全

友達が話した内容を理解できるように、学級の児童がやり取りや発表で扱う語句にはあらかじめ触れておく。一度にたくさんの語句を提示するのではなく、単元を通して帯活動で取り上げ、ゲーム的活動の中で繰り返し触れることで少しずつ慣れ親しませていく。表現についても、歌やチャンツに合わせて繰り返し声に出すことで、音声として慣れ親しませ、聞く活動、話す活動の中で活用できるようにしておく。

②スモールステップで児童を対話に加えていく。全・個

最初から児童同士で対話をさせるのではなく、聞いたり、練習したりする段階を踏んで、やり取りをする場面や表現に慣れさせながら、徐々に児童を対話に加えていく。教員とALTの対話を聞かせる、教員と児童やALTと児童が対話をする、友達同士が対話をするのを聞かせる、教員やALTと一緒に友達と対話をするなどの活動が考えられる。